

ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R元年12月26日

【家庭の教育力の大切さ】 校長 宮地 敏彦

11月下旬、全校児童にお昼の放送で“ポイ捨て”について話をしました。『“ポイ捨て”をする人は少しのエネルギーも使わず、心の痛みもなくゴミを捨てるけど、それを拾う人たちの労苦は大きく、悲しみも大きい。ゴミを捨てる人は幸せを手放し、ゴミを拾う人は幸せをつかむことになる。…』その放送を聞いた翌日から、「ハイ、ごみ拾ったよ。」と差し出してくれる子があらわれ、とてもうれしい気持ちになりました。また、あるときゴミを拾っていると、『校長先生ありがとうございます。』と言われ、とても感動しました。『おはようございます。』と挨拶する子がほとんどの中で、通学路（公道）のゴミを拾う人に「ありがとう。」とお礼を言える子は、きっと家庭で、「感謝」の大切さや人の善意・好意の受けとめ方について触れられているのだらうと思いました。



＜手作り弁当を楽しむ3年生＞

昨今、家庭や地域の教育力が低下している(?)と言われていますが、私は家庭や地域の文化が変わってきているということだと思っています。「大晦日は大掃除するのだ。」「お正月の三が日は人の家に遊びに行くものではない。」「お年玉をもらったらきちんとお礼を言う。もらってすぐ封を開けたり、金額についてあれこれ言わない。なんの労苦もしないでいただけるだけ感謝なこと。」など親から言われていたことを今も覚えています。親の言葉はそのまた親の教えであり、それは日本の文化からきていて、その土台には、人に対する感謝や思いやりの気持ちがあるのだと思います。

学校の教育力についても常に問われ、教職員は日々研鑽を積むことに努めています。しかし、学校生活の中で同じ失敗を繰り返したり、生活向上に向けて前向きになれない子たちの中には、教職員の助言や励まし、指導を軽んじたり、見下したりする言動があります。校内で先生のことを呼び捨てにする習慣もその一つだと言えます。人格の成長や学力の向上は、話しを聞く素直さや誰の話でも誠実に聞く謙遜な心なくしては実現しません。私たちの子ども時代は、どんな怒られ方をしても、『先生が叱るのはあなたのため！』といつも親に諭されました。学校の教育力を高めるためには、ご家庭のフォローやバックアップが必要です。「先生を呼び捨てにしない！」と言っていただくだけでも、子どもたちは正しい対人関係を身につけて成長につながっていくことでしょう。

【聞こう、語ろう、将来の夢】

年末年始には、家族や親族が集まったりして、子どもたちにとっては楽しい時間になることでしょう。そんな時、まわりの大人から『将来何になりたいの？』などとたずねられることがあるかもしれません。また、正月の“初夢”の話もしたりするかもしれませんね。

何十年も前のテレビCMで、今も記憶に残るキャッチコピーがあります。『子どもの頃、夢をもてと励まされ、長じては、夢をもつなと落とされる。』（文言は正確ではないかも知れません。）これは意外と多くの大人が言いがちなことだと思っています。『現実を見ろ…』というセリフ等。

先進国7カ国対象の調査で、「将来に希望がある」若者の割合は、61.6%で日本が最低でした。その要因としては、「夢＝職業」ととらえ、『何になりたい？』というたずね方も関係しているかもしれません。そうすると、「なれる」か「なれないか」という選択肢しかないことになります。その結果、挫折したり、早くに夢をあきらめてしまうことが多くなるのではないのでしょうか。『どんな生き方をしたい？』とか『どんな大人になりたい？』という聞きの方が努力しやすく、希望がもてるような気がします。その結果として具体的な職業につながっていけばいいと思います。

小中学校で行う総合学習には、将来の生き方を考える“キャリア教育”が位置づけられています。夢をもつことは、気持ちを前向きにしてくれるとともに、幸せにつながります。

冬休みはご家族でいろんなことを語り合っていたきたいと思います。



＜将来の自分は…＞